

令和5年度第2回小笠原諸島世界自然遺産地域科学委員会 結果概要（助言事項等）

令和5年12月25日に開催された令和5年度第2回小笠原諸島世界自然遺産地域科学委員会における管理機関への主な助言事項等は以下のとおりである。

（1）遺産委員会決議事項の進捗報告に関する助言

管理機関より報告のあった世界遺産委員会決議への進捗状況については、科学委員会より了承された。世界遺産委員会決議における要請事項及び奨励事項に関する助言事項は以下のとおりである。

【要請事項 a：侵略的外来種対策について】

- ・遺産登録時からの課題である新たな侵略的外来種の侵入・拡散防止について、早期発見及び早急な防除のための体制構築に向けた実践的な取組を行うなど、対策をより一層加速させていくこと。

（2）科学委員会下部WGからの報告に関する助言

各WGから示された方針、取組状況について、科学委員会より了承された。各WGからの報告に関する助言事項は以下のとおりである。

<グリーンアノール対策ワーキンググループ>

- ・兄島でのグリーンアノール分布拡大を踏まえ、弟島へのグリーンアノール侵入時の対応方針の検討、希少昆虫類の生息域外保全の検討、技術開発の体制整備を進めること。
- ・特定の島や種群に限定しない昆虫類全体を対象とした議論・検討の場の設置を検討すること。

<陸産貝類保全ワーキンググループ>

- ・兄島におけるネズミの増加を踏まえ、兄島での殺鼠剤の空中散布を速やかに行うとともに、今後、第2世代の殺鼠剤の使用も検討していくこと。
- ・アジアベッコウの分布拡大を踏まえ、村民への注意喚起も含めた島内拡散防止対策を進めること。
- ・陸産貝類を取り巻く状況の変化に対応できるよう、陸産貝類保全方針の見直しを進めること。

<母島部会>

- ・ははの湯の普及啓発に努めるとともに、母島部会で取りまとめた継続課題について、地域連絡会議にて議論を引き継ぐこと。

（3）その他

- ・外来リクヒモムシの脅威について改めて関係者間で認識を共有するとともに、分布域の把握を進めること。

以上